

副会長からのメッセージ

“世界の潮流と品質文化”



クラリオン(株) 品質保証本部 主管技師長
皆川 昭一

昨年来の全世界同時不況もそろそろ底との報道も流れているが、景気回復後においても社会構造は以前の状況には戻らず、いくつかのパラダイムシフトが大きな潮流として進んでいるように思われる。

一つは、社会インフラとしてのIT化の流れであり、高速インターネットや無線通信サービスの普及、および検索技術などのソフトウェア進化による情報入手・利用のコスト低下などで産業構造が変革していること。

二つ目は、経済のグローバル化の流れが拡大していることである。日本の貿易量はこの10年間で80%超増加しており、今回の経済危機において輸出企業は大きな影響を受けた。加工貿易による外貨獲得は過去の日本経済の発展には不可欠であったが、ハードからソフトへ、さらにはグローバルなサービスビジネスへのシフトが本格化するに伴い、日本企業が世界的競争力を維持するためのさらなる取り組みが課題である。

三つ目は、自然との共生による持続可能社会への取り組みが本格化することである。すでに省エネ・省資源、温暖化防止や環境負荷低減など、経済活動全体に対する行動規範が厳しくなっている。このため、例えば自動車産業は大量生産開始から101年目でエネルギー革命に突入り、電気自動車などの実用化による産業構造の変革が本格化しつつある。また、持続可能社会の実現には世界統一基準で人類全員が参加する必要があるが、「必要なモノを無駄なく活用」することが基本であり、そのために「ロスを出さない品質管理」の共通理解と実践が重要である。

これらの社会・産業変化に対して日本の良いところを強みとして世界の発展と人類の幸せに貢献する

ために以下の取り組みが必要であると考えます。

(1) 新サービスシステムの創造と世界的な協業推進
社会インフラの変化を見据え、ITを活用する新しいサービスの創造や協業による付加価値の確保などをグローバルに進める必要がある。さらに日本国内においても“ストック(所有)”から“フロー(体験)”への価値シフトが進むため、サービスの高品質化への取り組みが重要である。そのため本学会の「Qの展開」「Qの創造」においても新しいサービス分野の品質管理技術の構築を進めていきたい。

(2) 高品質で世界に貢献

従来の日本の強みとして現場力、勤勉さ、チームワークに裏づけられた品質向上への取り組み能力の高さがあったが、大沼会長のメッセージにもある「品質立国日本」の推進は新しいパラダイムにおいても学会の基幹として活動を進めたい。

(3) 日本文化を誇り、世界と連携

持続可能社会実現の上で、自然を尊び、“侘び・寂び”など省エネルギー下での精神的満足を追求する古来の日本文化は現代世界においても十分誇れるものであり、世界の人々と共有すべきものではないだろうか。本学会も世界の品質関係の学会・団体との連携を強化し、地球規模での品質向上を推進しているが、その1ステップとして本年9月のANQ東京大会を成功させるべく、会員各位のご協力をお願いするところである。

さて、現在日本の将来に悲観的な論調が風靡しているが、次の時代を担う若い世代に日本の良い文化を伝承し、それが世界レベルで発展することに学会として寄与できればと願っている。